

# 令和5年度宮崎市民文化ホール 指定管理者・事業提案概要書

- グループ名：MSG・AVCグループ
- 代表団体：学校法人宮崎総合学院
- 構成団体：株式会社AVC放送開発
- 指定期間：令和6年4月1日～令和11年3月31日

## 1 管理運営にあたっての基本方針

3期15年の実績・ノウハウや新しい発想による展開

芸術文化を通して地域振興に貢献したいより一層の強い意志

基本方針

モットー：「さまざまな文化芸術にふれあい、はぐくむ宮崎市民文化ホールを地域と共創します」

1 つながる(連携)	2 はぐくむ(次世代育成)	3 にぎわう(利用増)
<ul style="list-style-type: none"> <li>○文化芸術活動への市民参加の推進</li> <li>○施設利用者の開拓</li> <li>○文化芸術団体との連携</li> <li>○利用者満足度の向上</li> <li>○地域との連携と協力強化</li> <li>④地元経済界との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文化芸術活動への子どもたちの参加の推進</li> <li>④他の文化施設との協働による人材育成</li> <li>④学校との連携や教育プログラムへの提言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3期15年の実績を踏まえた円滑な運営と事業のさらなる拡充</li> <li>④サントリーパブリシティサービス(SPS)との協働による質の高い文化芸術の提供</li> <li>④来場者31万人の達成(最終年度)</li> <li>④ネーミングライツの提案</li> </ul>

(④:次期の新しい取り組み)

年間利用者数31万人の達成(最終年度)

## 2 市民の平等な利用の確保

### ①不自由のない利用の確保

利用者が同じサービスを提供されていると認識できるように、公平公正なサービスを含めて合理的配慮に努め、障がいの有無、年齢等に関係なく誰もが不自由のない利用を、これまでの15年間の経験を踏まえながら、より一層確保します。

### ②子ども・障がい者・高齢者への対応の充実

- ④サービス介助士の資格取得
  - ・車いす・筆談ボード④筆談用タブレットの配備
  - ・ホームページに「やさしい日本語自動変換ツール」導入



▲合理的配慮の提供イメージ

## 3 要望、意見、苦情への対応

- 全利用団体のアンケート数 ⇒約300件回答(4年度)
  - イベント観客へのアンケート数⇒2,300件回答(4年度)
- ➡
- ①毎日チェックした上で整理・分析し、対応策の検討。
  - ②必要なものは新たな設置、または既存品の改修

## 4 サービス向上のための取り組み

項目	主な内容
①利用者利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年中無休の継続</li> <li>○利用者からの要望による早めの開館等</li> <li>○バス事業者へ臨時バス運行の申し入れ</li> <li>④全職員のサービス介助士の資格取得</li> </ul>
②安全で快適な文化ホールの実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○状況に応じて看護師の配置</li> <li>○清潔感のあるホールづくり・快適な空調等の環境設定</li> </ul>
③分かりやすい舞台活用サポートの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○経験豊富な舞台技術者による事故防止や演出効果等の適切な支援</li> <li>④ドローンで撮影した館内映像のホームページ掲載</li> </ul>
④プレイガイド機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>④インターネットでのチケット販売実施・コンビニでのチケット受取可能</li> <li>④公演内容に合わせたチケット割引制度の拡充</li> </ul>

⑤支払方法の拡充	⑧電子マネー等のキャッシュレス決済の導入
⑥ホームページ等の充実	⑧イベント案内等を SNS で多くの人に配信 ⑧「やさしい日本語」に変換する「やさしい日本語自動変換ツール」導入 ⑧清武文化会館(指定管理者指定申請中)のホームページと一体化

## 5 利用者の増加を図るための取り組み

### (1)利用者のタイプ別の取り組み

項目	主な内容
①イベント主催者(プロモーター)	⑧SPS・藤原歌劇団(オペラ公演)の協力による多様なイベントの誘致 ⑧ネーミングライツ導入の提案
②イベント主催者(アマチュア・地元主催者)	○地元文化芸術団体等への多様な利用形態を提案 ○小学校・幼稚園・保育園への鑑賞教室等の平日実施や和室の利用方法
③一般利用者(練習室、会議室、和室)	○初めての利用者へのしっかりとした案内 ○若い世代への公演内容に合わせたチケット割引の拡充
④観客	⑧SPSと協働による魅力ある全国規模のイベントの誘致
⑤来館者(立ち寄り利用者)等	○季節感のあるディスプレイ(七夕飾りやクリスマスツリー)やロビーを活用した絵画等の展示

### (2)新しい視点での取り組み

項目	主な内容
①リピーターの取り込み	⑧利用者への SNS 等によるアンケート調査・プログラムやサービスの改善
②館外活動(アウトリーチ)の充実	○音楽家等による小学校や福祉施設等への出張演奏会(アウトリーチ事業)の継続
③担い手の育成	○ワークショップ・ミニ演奏会の開催 ⑧文化ホール、清武文化会館(指定管理者指定申請中)、市民プラザの3館連携による音楽・ダンス等コンクールの開催 ⑧コンクール入賞者の文化ホール主催イベントへの出演機会の創出
⑧④障がい者の文化芸術活動の推進	○障がい者の芸術作品を展示するスペースを市に提案 ○文化ホールのホームページで障がい者の芸術活動の取り組みやイベント情報などの紹介
⑧⑤産業・観光・まちづくりへの参画	○地元経済界や観光事業者、自治会と積極的に連携によるまちづくり等の地域振興への寄与

## 6 自主事業の展開

主な事業名	内容
宝塚歌劇団公演	高い人気を誇る宝塚歌劇団の公演を招致。 優れたミュージカル公演を堪能してもらう。
お正月フェスティバル	昔ながらのお正月の遊びである凧あげや羽根つき等を手作りし、遊んでもらう。コマ回しや書初め体験、福笑い等のコーナーも設ける。 家族や地域の方との触れ合う場を提供する。
⑧発見! 舞台技術体験!	市民文化ホールの舞台上で欠かせない舞台技術、音響や照明などについて体験するワークショップを開催する。中学生以上を対象に、音響・照明が舞台上でどのような効果を生んでいるかなどを体験してもらう。
まち・人・元気♪ 楽しくレクリエーション教室	健康体操やポンポンカーリングなど、地域の方に様々なレクリエーションを楽しんでもらう。健康づくりと地域のコミュニケーションにもつなげる。 ※宮崎県レクリエーション協会や宮崎市レクリエーション協会と連携
避難訓練コンサート	防災の重要性がますます高まる中、実際の公演中に震度6強の地震が発生し、その後地震による火災が発生したという想定で避難訓練を実施する。客席内にお客様がいる状況で、避難誘導にどれだけの時間がかかり、その間にどのような問題が起こるのかを検証し、今後の防災対策に資する。

## 7 施設管理に係る収支計画等

## (1)収入

(単位:千円)

項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	
収入	指定管理料	190,200	191,600	193,200	193,600	193,800
	事業収入	12,385	12,225	18,652	17,216	12,938
	その他	4,800	4,800	4,800	4,800	4,800
収入合計	207,385	208,625	216,652	215,616	211,538	

## (2)支出

(単位:千円)

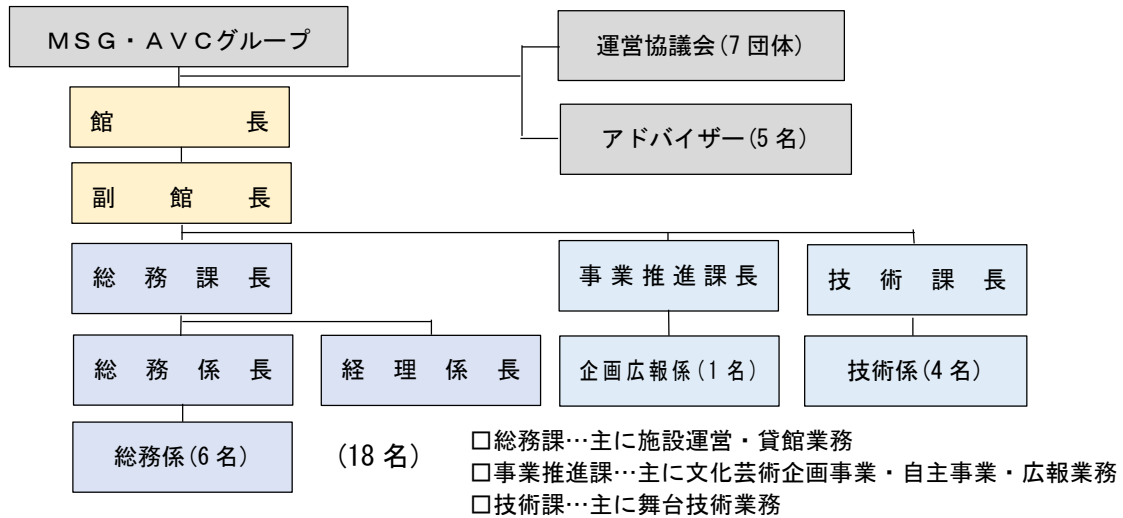
項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	
支出	人件費	44,464	45,347	46,253	46,253	46,253
	光熱水費	46,700	46,700	46,700	46,700	46,700
	維持管理費	86,650	88,132	89,644	89,644	89,644
	事務費	8,308	8,308	8,308	8,308	8,308
	事業費	16,863	15,638	21,147	20,111	16,033
	その他	4,400	4,500	4,600	4,600	4,600
支出合計	207,385	208,625	216,652	215,616	211,538	

## (3)管理業務の効率化と経費の縮減に関する考え方・提案

項目	内容								
①委託費の縮減	○迅速でコストパフォーマンスに優れた委託先の選定。 ○市が契約を行う場合の事業者選定方法による見積もり合わせ。複数年契約。								
②中短期修繕計画の活用	○中短期修繕計画を策定による効率的・効果的な改修・修繕等の実施								
③当グループの資源活用	○当グループが持つ人的・物的資源の活用。委託・消耗品の一括発注。								
④業務の効率化等	○誰でも複数の業務をこなすことができるマルチスタッフ化(例えば、総務課職員が貸館業務だけでなく、企画や広報に関する業務も一部分担するなど)。 ○役割分担による効率的な運営体制の構築(人事・給与支払関係や市との基本協定に関する業務等はMSGの学院本部で実施)。 ○専用の会計ソフトウェアの活用やネットバンキングによる経理処理の効率化。 ○会計ソフトウェアを活用した予算の執行管理による計画的な経費縮減。 ○業務用携帯電話の活用による迅速な連絡と情報共有(正副館長、事務所用配置済み)。 ○MSGグループの情報系専門学校の知識を生かしたDX(デジタル化)の取り組み。 ○経験豊富な職員による消耗品等の在庫管理の徹底。高価格の際の複数見積りの徹底。								
⑤省エネ・省資源への積極的取り組み	○こまめな消灯、照明のLED化。○クールビズ等によるエアコンの適切な温度設定。 ○中央監視室と連携したデマンドコントロール活用、大ホール等空調の適切な温度設定。 ○利用者への節電、節水の協力の呼び掛け(張り紙等)。 ○利用後の練習室や会議室等の照明、エアコンの消し忘れチェックの徹底。 ○環境率先行動チェックシートの活用。								
⑥文化芸術企画事業の効率的実施	○事業ごとのチケット券売の目標枚数・販売促進計画の立案による事業収入の確保。 Ⓢ SPSとの連携による助成金に関する情報収集や獲得。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>基金・助成金</th> <th>助成団体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>芸術文化振興基金</td> <td>独立行政法人日本芸術文化振興会</td> </tr> <tr> <td>室内楽の演奏活動事業助成金</td> <td>公益財団法人日本室内楽振興財団</td> </tr> <tr> <td>地域の文化・芸術活動助成事業</td> <td>一般財団法人地域創造</td> </tr> </tbody> </table>	基金・助成金	助成団体	芸術文化振興基金	独立行政法人日本芸術文化振興会	室内楽の演奏活動事業助成金	公益財団法人日本室内楽振興財団	地域の文化・芸術活動助成事業	一般財団法人地域創造
基金・助成金	助成団体								
芸術文化振興基金	独立行政法人日本芸術文化振興会								
室内楽の演奏活動事業助成金	公益財団法人日本室内楽振興財団								
地域の文化・芸術活動助成事業	一般財団法人地域創造								
⑦地元経済界への協賛の呼び掛け	Ⓢ 長年にわたり宮崎市を拠点に活動してきた実績(創業MSG37年、AVC50年)を踏まえた、地元企業への賛助しやすい方法の提案。								

## 8 職務を遂行する体制

### (1) 組織



### (2) 研修体制

研修項目	内 容
サービス向上	①接客研修 ②舞台技術研修 ③新規採用職員 OJT 研修 ④手話研修 ⑤IT リテラシー研修 ⑥サービス介助士
危機管理	①避難誘導訓練 ②AED 操作・心肺蘇生法訓練 ③不審人物対応訓練 ④避難訓練コンサートを通じた研修
文化芸術に関する事業企画研修	①アートマネジメント研修(公立文化施設協会) ②先進的な施設への視察研修
コンプライアンス(法令順守)	①コンプライアンス研修 ②人権研修

## 9 安全管理に対する対応

項 目	対 応
①自然災害(地震、火災など)への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○甲種防火管理者の配置、消防計画の作成・防火対策、訓練の実施</li> <li>○危機管理マニュアル・消防計画に基づいた防災訓練の実施、消火訓練・応急手当訓練</li> <li>○地震に備えた備品等の転倒防止対策、避難経路確保等</li> <li>○大規模災害時、文化ホールに避難所等が設置される場合での必要な職員の配置</li> <li>○災害対応型の自動販売機設置</li> <li>○参加者への防災意識高揚、職員の訓練を目的に避難訓練コンサートの開催</li> <li>⑥ BCP(事業継続計画)の策定</li> </ul>
②不審人物への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○状況に応じての施設巡回</li> <li>○警察との連携による不審者対応訓練の実施</li> <li>○不審者が利用者に危害を及ぼす可能性がある場合での利用者の安全な場所への避難の確保、防犯器具の使用を含めた速やかな警察への通報</li> </ul>
③設備事故への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○46項目の点検チェックリストによる施設・設備の早期の不具合等の発見</li> <li>○緊急修繕等の対応時、実績のある業者等との連携による即日での現場確認・対応</li> <li>○施設、設備の不具合等での利用制限時、市への報告、利用者への告知の徹底</li> </ul>
④利用者の安全確保や時間外での対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎日の AED バッテリー点検</li> <li>○ケガ、急病等の発生時、職員による AED の使用や救急車の要請等</li> <li>○心肺蘇生法・応急処置の訓練による職員の対応力向上及び消防署・近隣医療機関との連携</li> <li>○時間外での緊急事態に対応するための緊急連絡網整備及び担当職員の現場急行可能な体制の構築</li> <li>○新型コロナウイルス感染症拡大防止への万全の対策</li> </ul>